

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 新宮高等学校定時制

校長名： 深野 泰宏

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・新宮、東牟婁地方で唯一の本校定時制での学びを希望し、落ち着いてじっくり学習に取り組む意志を持つ生徒を募集する。
- ・学び直しを含め、少人数での丁寧でわかりやすい授業を展開し、わかる喜びと成功体験によって基礎学力を定着することを目指す。
- ・「知・徳・体」を磨き、人間形成を図るとともに、地域社会に貢献しうる新しい伝統を創造する生徒を育てる。

学校評価の公表方法

- ・各保護者への配布や、本校ホームページに広く公表していく。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月8日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	就労生徒や小・中学校で不登校経験者、転入再チャレンジの生徒等が在籍している。生徒一人一人の多様なニーズに対応できるよう学習内容、学習指導方法の工夫・改善に取り組む。	B	学習内容、指導方法の工夫や改善を行う。	教材の精選。視聴覚教材等を積極的に活用する。	B	視聴覚教材、ICTの活用はどの教科にも工夫が見られた。	学習指導要領の趣旨を理解し、わかる授業の確立を目指してICTを活用した授業の工夫・改善が必要である。授業規律を確立し、学習意欲を持たせるための授業改善が必要である。低学力生徒への対応についての取り組みが必要である。
			研究授業、公開授業を積極的に実施する。	研究授業、公開授業を計画し確実に実施する。	C	体験入学・公開授業は実施したが、研究授業はあまり実施できなかった。	
			授業規律を確立する。補習授業を実施する。	遅刻、早退、欠席生徒への指導の徹底を図る。	B	欠席、遅刻、早退生徒への家庭連絡は担任から適切に行った。	
2	就職に関して、本校生徒を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。学力、社会性、進路意識等を向上させ、卒業後の進路保障が確実なものとなるよう、取り組む。	C	家庭訪問、三者面談、個人面談等を積極的に実施する。	機会があるごとに、家庭訪問、面談を実施する。	B	三者面談(個人面談)は各学期に1回以上、家庭訪問は適宜行った。	三者面談、家庭訪問は引き続ききめ細かく実施する予定である。近隣校や関係機関と連携して情報共有を図り、新規求人を開拓したい。進路実現に向けて、1、2年次の時期から動機付けを行いたい。
			進路意識向上ガイダンス実施。ハローワークとの連携強化。	ガイダンス、連携等迅速に生徒に情報伝授を行う。	C	将来に向けて進路意識を持つ動きかけを行ったが不十分であった。	
			事業所訪問を実施する。三修制生徒ゼロ限授業を実施する。	事業所訪問、ゼロ限授業を積極的に実施する。	B	生徒の進路希望に沿った、事業所訪問、ゼロ限授業を積極的に行った。	
3	家庭的に恵まれない生徒が多く、一人一人の繋がり、集団に対する帰属意識も希薄であるため周囲に流されやすい。他者を思いやり、自らの行動を正しく意志決定する能力を育てたい。	B	外部講師を招へいし人権LHR等の充実を図る。	学期ごとに実施し、人権尊重の意識を高める。	B	学期に1回人権LHRを実施し、人権意識を高めた。	人権LHR年間指導計画に基づき、講演、体験、ビデオ鑑賞等の形式で、身近な人権問題を考える機会をつくる。学校行事等への積極的な参加を促進するため、引き続き内容を検討する。美化、環境保全の態度を養う機会を引き続き設定する。
			生活体験発表等を実施し、発表する場を設定する。	学校生活への意欲、自立心、自己肯定感を養う。	C	生活体験発表の機会は持てなかったが、HRで発表する場を設けた。	
			環境美化と清掃活動の徹底を行う。特別活動の充実を図る。	環境保全に努め、社会的資質を育成する。	B	日々の清掃活動を積極的に進め、教室等の美化に努めた。	
4	生徒が学校行事、特別活動に取り組む時間が少なく、教員が生徒一人一人に向き合う時間も制限される。教育相談等を活用し、一人一人を大切に温かく丁寧な指導を目指す。	C	春・秋の遠足と保護者・教職員参加のレクレーションを充実させる。	行事を通して生徒・教員・保護者の親睦を図る	B	3月のスクールコンサートでは、生徒会役員が中心となり取り組んだ。	学校行事等への参加を通して、帰属意識を育てる取組を引き続き行っていきたい。教育相談、特別支援体制の充実を引き続き図っていきたい。生徒の些細な変化に共通理解を持ち教員集団が一致団結する体制を持つ。
			SC・SSWの活用や地域、関係機関との連携強化を図る。	関係機関5との連携を強化し問題解決を図る。	C	SCを活用して、カウンセリングを受けたが、継続できていない。	
			生徒が抱える様々な問題を見逃さずきめ細かな指導を行う。	生徒一人一人を大切にす指導を目指す。	B	保健室では、悩みの相談等、気軽に話せる空間となっている。	

学校関係者評価（2月16日実施）

- 生徒（22名）、保護者（19名）に学校評価アンケートを実施。
- 保護者（プラス面）
- 以下の質問に対して全員が「十分である」「ほぼ十分である」と回答した。
- 本校定時制がこの地域で一定の役割を果たしている。
 - 公共の施設や設備を大切に使用している。
 - 今後、この地域に定時制教育が必要である。
- 保護者（マイナス面）
- 以下の質問に対して比較的「あまり十分でない」の割合が多かった。
- 本校では、将来社会人として生きていくための取組は十分に行われている。（21%、4名）
 - 学業と勤労を両立させている。（16%、3名）
- なお、「改善を要する」の回答はなかった。
- 生徒（プラス面）
- 以下の質問に対して全員が「十分である」「ほぼ十分である」と回答した。
- 将来の生き方や進路について考える機会や情報を十分に与えている。
 - 校舎、校庭、教室の環境美化や整備ができています。
- 生徒（マイナス面）
- 以下の質問に対して比較的「あまり十分でない」「改善を要する」の割合が多かった。
- 学校行事は活発に行われている。（18%、4名）
 - 学校生活は充実していると思うか。（18%、4名）
 - 他の学校にはない特色があるか。（14%、3名）
- 〈直接的な意見〉
- 定時制教育は、多様な生徒（中学まで不登校気味だった生徒や発達障害等何らかの理由で全日制高校に不応である生徒等）にとって必要な教育であると同時に、生徒の居場所だと思います。今後は必要であると思います。
 - 十分に教育活動はできていると思います。